

チャレンジ!! ゼロカーボン

問い合わせ 環境対策グループ
(☎05)2958)

登別市は、2050年までに温室効果ガス排出量『実質ゼロ』を目指します

ゼロカーボンシティへの挑戦

近年、地球温暖化が要因とみられる気候変動の影響により、世界各地で猛暑や大雨、干ばつなどの異常気象が多発し、日本でも各地で集中豪雨や台風の巨大化などによる自然災害が頻発化・激甚化しています。

今後、地球温暖化の進行に伴い、気候変動のリスクはさらに高まることが予測され、その対策は喫緊の課題となっています。

そこで政府は令和2年10月に2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、『2050年カーボンニュートラル』を目指すことを宣言しました。

登別市も、温室効果ガス削減のためには、市民や事業者、行政が一丸となり、環境に配慮した取り組みが重要であるという認識のもと、地球温暖化によるリスクを低減し、持続可能なまちづくりを実現するため、2月の市政執行方針において『ゼロカーボンシティへの挑戦』を表明しました。



▲ゼロカーボンシティへの挑戦を表明した小笠原市長

ゼロカーボンシティってなに？

2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする旨を公表した地方自治体のことです。

カーボンニュートラルってなに？

二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの『排出量』から、植林、森林管理などによる『吸収量』を差し引いた合計を、実質的にゼロにすることを意味します。

世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5℃に抑えるため、120以上の国と地域が『2050年カーボンニュートラル』という目標を掲げています。

～「環境省ウェブサイト」より～

地球温暖化ってどういうこと？

もし大気中に水蒸気、二酸化炭素、メタンなどの温室効果ガスがなければ、地球の平均気温は現在の14℃程度から-19℃程度まで下がってしまいます。

これは、太陽から地球に降り注ぐ光が地球の大気を素通りして地面を暖め、その地表から放射される熱を温室効果ガスが吸収し大気を暖めているからです。

近年、産業活動が活発になり、二酸化炭素、メタン、さらにはフロン類などの温室効果ガスが大量に排出されて大気中の濃度が高まり、熱の吸収が増えた結果、気温が上昇し始めています。これが『地球温暖化』です。

21世紀末の胆振地方の気候予測 (20世紀末と比較)

～「北海道地方地球温暖化予測情報」より～

- 平均気温 約4.8℃上昇
- 夏日の日数 年間約59日増加
- 冬日の日数 年間約59日減少
- 年降雪量 48%減少



ゼロカーボンへ向けた市の取り組み

市は、温室効果ガスの排出削減につながる取り組みとして、公共施設への太陽光発電設備の導入や照明のLED化、公用車への電気自動車の導入、庁内会議資料のペーパーレス化などに取り組んできました。

令和4年度は、市内消費を喚起するための『エール建設券発行事業』を実施します。この事業は、ゼロカーボンシティ実現への一助となる住宅用太陽光発電設備の整備にも利用できます。

さらに、登別温泉地区では、道内初となる環境配慮型の低速電動バスを導入し、地域脱炭素の実現やSDGsの達成に向けた持続可能な観光地づくりを進めます。

市は、これからもゼロカーボンシティの実現へ向けて、その取り組みなどについて市民の皆さんにお知らせしていきます。



▲低速電動バス
『グリーンスローモビリティ』